

交流の扉

平成19年度の伊万里市国際交流協会とその会員の活動を報告します。

5月

- ・伊万里市国際交流協会総会の開催
- ・伊万里市長一行が大連市にて開催された「2007中国大連・日本地方都市トップフォーラム」に参加
- ・「友好交流都市」の協議書に調印
*名実共に大連市と友好交流都市になる

6月

- ・初級韓国語教室開講
ユ ファジュン
(講師：俞 華濬さん 受講者31名)



*韓国語教室でキムチ作りを体験しました

8月

- ・初級中国語教室開講 ジョウタツコウ
(講師：公務研修生 常 達光さん 受講生42名)
- ・韓日親善スポーツ交流事業 伊万里少年剣道交流団54名が韓国釜山を訪問し剣道交流会、ホームステイを行った (伊万里スポーツ少年団)

9月

- ・「国際交流ひろば」事業を開催
タイ・インドネシア・アメリカの料理と文化を学習 (講師：高久 ディディクさん、松尾かおりさん、ケン ウッドフィンさん)
- ・大連市のデパートで伊万里梨の販売フェアを開催 (伊万里アジアネットワーク事業)
- ・大連市友好交流20周年記念式典を開催 (大連市駐西日本経済貿易事務所 所長 李 述喆さん、故于植元氏の夫人 孫 紹華さん、故于植元氏のまな弟子 徐 甲申さんを招聘)

- ・みなと祭り会場にて「大連市・伊万里市友好の歴史展」を開催
(交流の歴史、小学生絵手紙交流の作品を展示)

10月

- ・中国青島市より歌舞劇院歌舞団を招き伊万里秋祭り会場にて公演 (伊万里市日中友好協会)

11月

- ・友好交流20周年記念事業として「伊万里市民大連市交流訪問団」が大連市にて表敬訪問、太極拳、書道、図書館交流等を行う (市長以下76名)
- ・大連市内の「大連日航飯店」にて伊万里焼展示販売事業を開始 (伊万里アジアネットワーク事業)
- ・「大連海事大学との伊万里文化伝承協調事業」に関する協定書締結 (陶芸講座へ伊万里焼窯元より講師派遣予定)

12月

- ・市内外の在住外国人との交流会「民祭交流の夕べ」を開催 (いまりSGG)

1月

- ・中国大連市科学技術協会 リウウコッキョウ 劉 国強 副主席来伊 (農業研修における人材交流の協議)

2月

- ・「伊万里市民大連市交流訪問団」帰国報告会を開催 (伊万里市日中友好協会)
- ・大連市公務研修生 常 達光さんが帰国



*研修を終了し帰国した常さん(左)と市長(右)

友好の架け橋

中国大連市と「友好交流都市」締結



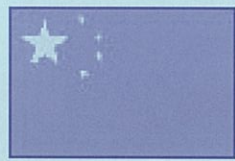
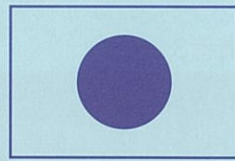
大連市との友好交流20周年を記念して、市長以下76名の「伊万里市民大連市交流訪問団」が、平成19年11月22日から25日まで大連市を訪問しました。

訪問団は市政府の熱烈な歓迎を受け、20年来の友好を再確認しました。歓迎レセプションでは5月に調印した「友好交流都市」の協議書を陶板で複製し贈呈。(写真)今後の友好交流をさらに強化することを確認しました。

また、大連図書館で開かれた市民交流会では、以前より交流のある太極拳、書道、図書館それぞれの団体が日頃の成果を披露しあい、会場を大いに盛り上げました。



*協議書(陶板製)を贈呈する塚部市長(左)と夏大連市長(右)



それぞれの思いを乗せて…



—タイムスリップ—

十五年ぶりに訪れた大連は、あまりに懐かしく、福岡空港を発って二時間弱、十五年前にタイムスリップした様な気さえしました。今回の訪問の第一の目的であります「市民交流会」は、私と大連との距離を一層縮めてくれました。今後、両市の関係がより良く進展する事を願わずにはいられません。また、伊万里市民になって良かったと思っただけでもありません。何より一緒に過ごして頂いた楽しいお仲間、感謝の気持ちで一杯です。

中尾 涼子(大坪町)

—なつかしの大連—

今度の中国大連への旅は私にとって有意義であった。参加出来たことに先ず感謝したい。

第一は中国語の師に逢うこと。第二はあれから十余年大連が懐かしい。平成八年竹内市長が大連市名誉市民授与の時に参加している。思い出いっぱいの旅である。一緒にあった今は亡き山元病院理事長ご夫妻の姿が焼きついている。何よりも驚いたのは大連市の驚異的な発展ぶりである。ゴシック建築が林のごとく立ち、国際都市大連に変わっていた。

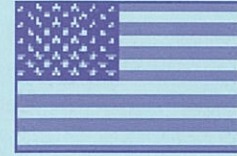
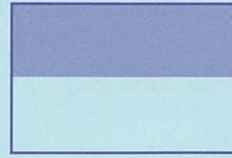
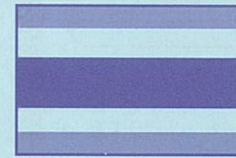
文明の発達(眼(まなこ)に刺した。それにも増して人情の豊かさである。

第一の目的である中国語の先生、白日玲先生に逢えたことが最高の喜びであった。先生は毎年すてきな年賀状をくださっていた。海を越え国境を越えての師弟愛である。大連に着いた翌日の夜ホテル迄逢いに来てくださった。また、交流会では沢山のリングをプレゼントしてくださって、感謝感激であった。

一緒に写った写真も温もりがある。お世話になった皆さんありがとう。

蒲原 幸子(大坪町)

国際交流ひろば



「コップンカ、トゥリマカスイ、そして、サンキュー」

今年度の国際交流ひろばは「いっしょに作ろう!世界の料理、もっと知ろう!世界のこと」というテーマで、9月25日(土)に市民センターで開催されました。小学生19名、中学生3名が参加し、タイ・インドネシア・アメリカから5名の講師をお迎えし、クッキングや遊びを通して交流しました。

子どもたちは班に分かれて、タイの「トムヤンクン」と「から揚げ」、インドネシアの「ソトアヤムスープ」と「アボガドジュース」、アメリカの「のりシチュー」に挑戦しました。玉ねぎやじゃがいもを切ったり、えびの皮むきなどをしたり、はじめは慣れない手つきでしたがだんだん上手になりました。

講師やボランティアの方々の支援もあり、上手に出来あがりました。その後、全員で班に分かれ会食をしました。その時期が「ラマダン(断食の月)」で、インドネシアからの先生方は料理を食べることができずにお気の毒でした。日中に断食をするそうです。

昼食後は、講師からのお話や出身国のゲームをしてさらに交流を深めました。日本に来て困ったことを話してもらったり、自分の国の言葉で「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」はどう言うのか、国旗あてクイズや身体を動かして遊ぶ「アニマルゲーム」をしたりして、交流の輪をさらに広げることができました。

参加した子どもたちは、終わってからも講師の方々と記念写真を撮ったり、談笑したり、とても名残惜しそうな感じでした。あっという間に時間が過ぎ、楽しく充実した交流会だと思いました。きっと心の中に深く残ったのではないかと思います。

参加していただいた小・中学生のみなさん、また、指導をしていただいた講師の方々や各種団体のボランティアの皆様方、事前の準備から当日は終日、ご指導いただきまして本当にありがとうございました。



*モルトノさんに切り方を習う



*えびの皮むき

国際交流ひろば実行委員会座長
椋島 陽一郎(伊万里市東陵中学校 校長)

ALT(外国語指導助手)の2人をご紹介します

日本の英語教育について

マニトバ州(カナダ)の大学生のとき、私は二年目に好奇心から日本文学のクラスに登録をしました。すぐ私は欧米世界で接してきたものとは非常に異なる日本の芸術、文化、歴史に心を奪われました。そして数年後、私は大好きになった日本語と日本文化の中での生活を伊万里でスタートさせました。✓



「今まで教えてきた中で最もよく聞かれたことは、「日本の学生達が英語学習に非常に苦労しているのはなぜだと思いますか?」というものでした。その質問に答えるには経験が足りませんが、日本の教育制度が抱える英語教育の問題点について日本の外側から見た者の第一印象としてわかったことを2、3点述べてみます。

授業以外で英語を使うことがなく、英語を学びたい意志は強いのですが、日本の社会ではカタカナが英語の代用として頻繁に使われているので、英語を使う機会がほとんどありません。その結果、学生達は子音と母音を日本人になじみやすいよう組み合わせることで英語を発音することを学びます。言語というものは社会生活を営む上で、その場その場に適した使い方で幾度となく繰り返し使われることが一番いいのです。大切なことですが、学生達は心からやる気がなければいけません。もし、彼らが単に試験に通るために必要な文法型だけを学ぶなら、言語をもっと深く掘り下げて研究してみようとか、もっと実用に即した使い方をしてみようというような意欲ややる気はほとんど持たないでしょう。

グローバル化の時代で英語は国際語となっています。私は日本の将来を担う世代の人々がこの障壁を乗り越えられるよう支え、そしてもっと学びたいと切望している世界で彼らの素晴らしい独特の文化や考え方を広げて行くお手伝いが出来ることを望んでいます。

マイケル・ロアー (ALT)

ニュージーランドと日本

私はアートとデザインの学位を習得し、2005年に日本へやってきました。研究している間に、私は日本の木工技術や陶磁器、浮世絵、同様にアジアの歴史、文学に興味を抱くようになりました。日常生活の中で、それらの繊細さに直接目に触れることにも魅了されています。

私の祖国はマオリ文化等多くの日本人が知っているように、多様な芸術的、文化的影響を受けています。ニュージーランドの環境は独特であり、野外活動はその最たる文化です。諸外国を経験し、旅行するのはニュージーランド人(キーウィとも呼ばれる)にとって、不可欠です。ニュージーランド人口の20%は、イギリス、オーストラリア、アジア、ヨーロッパ諸国で暮らしています。✓



私の好きな経験の1つに、小学校で教えるということがあります。生徒たちの笑顔、彼らの学ぶ喜びに接するといつもワクワクします。この年頃の子供たちは直観力があり、言語を素早く、効率的に捉えることが出来ます。低学年の子供たちへ教える楽しみは英語学習への取り組みを自然のかたちで学ぶようにさせてくれることです。

私個人としては、学び方はどんな形でも人と直接話したり、研究だったり、一人の勉強でも楽しんでいきます。最も基礎的な方法における研究は高い知識、ほかのことを学びたいという感情的な根源との相互作用がキーとなります。私は知らないものへの理解、個人の驚きの気持ちからくる理解するという最良の道を見つけました。生徒達におけるこの気持ちは英語のマスターや学習全体に広がる最良の結果をもたらしました。

私は日本での経験からもっと学ぶことでしょ。そして友人達と多くの時間を過ごし、また新しく友人が出来ることを思うと大変幸せです。

ジェイミー・スネーダン (ALT)

伊万里市国際交流協会とは・・・伊万里市と市内の事業所、民間団体で構成され、世界の都市との産業、文化、スポーツ、教育等の交流を促進し、国際社会に対応できるまちづくりをはじめ国際間の相互理解と友好親善に寄与することを目的として設立された団体です。